

# 日本医史学会会報

57号(復刊)

令和3年10月30日

第123回日本医史学会総会・学術大会の開催にあたって	会-1
第122回日本医史学会オンライン島根大会を終えて	会-2
第122回日本医史学会学術大会に参加して	会-6
第122回日本医史学会 会員大会	会-7
(資料A) 2020年度 関連医史学団体報告	会-10
資料1~4	会-14
雑報(寄贈本リスト)	会-18
日本医史学会への寄付金について	会-20

## 第123回日本医史学会総会・学術大会の 開催にあたって

会長 土手健太郎

来年度の第123回日本医史学会総会・学術大会の会長を仰せつかりました愛媛県立中央病院集中治療センターの土手健太郎と申します。年次総会を開催させて頂くにあたりご挨拶申し上げます。

まず初めに、昨年来のCOVID-19パンデミックの中いろいろな方面で奮闘されている会員の皆様に衷心より敬意と謝意を表させていただきます。

さて、123回を迎えます来年度の総会・学術大会は、愛媛松山で、2022年5月14(土)、15日(日)の2日間の開催とし、翌16日(月)にはオプションツアーを計画しております。長い医史学会の歴史の中、初めて四国で開催させて頂けることを大変光栄に思っています。来年度は、コロナ禍を

乗り越え、様々な新しいスタイルを取り入れた、新しい時代の学術集会再出発の会となります。その会を新緑の高揚感の中、明るく元気の出る学術大会を演出するため、2題の特別講演と5題の教育講演を企画しました。まず、“医学史からの風”として日本医史学会理事長・順天堂大学特任教授坂井建雄先生にお話を頂き、次いで“愛媛からの風”として郷土史に詳しい西条市温芳図書館の友澤明先生に愛媛の郷土史・医療史についてお話していただきます。また、この数十年間の臨床医学の進歩には目を見張るものがあります。このことも、医史学にとって重要なことと考え、“臨床からの風”として愛媛県立中央病院と愛媛県立衛生

環境研究所の五人の先生方に、心臓外科、脳外科、放射線科、肝臓内科、感染症科の歴史と現状についてお話していただく予定です。さらに、“地方で医史学の花を咲かせよう”と題したシンポジウムも計画しております。感染防止にも細心の注意を払いつつ開催させていただくつもりです。

本年度の島根大会がオンライン開催となったため、久しぶりの地方都市での開催になります。今回開催させていただく伊予松山は道後温泉など大

変見どころのある、いろいろな文化に育まれた町です。この松山の地で、伝統ある日本医史学会を開催させていただくことで、医学・医療史の発展に僅少でも貢献出来たらと考えています。全国の医史学に興味を持っておられる医療職および文化人類史等に興味をお持ちの方、そのほかにも広い分野からの多数のご参加を頂き、この第123回大会が実り多い大会となりますよう、皆様方の温かいご支援とご鞭撻を心からお願い申し上げます。

## 第122回日本医史学会オンライン島根大会を終えて

長野 仁

森ノ宮医療大学大学院 教授

本日は2021年10月31日、第122回日本医史学会オンライン島根大会から40日余りが過ぎたところです。コロナ禍という不可抗力に翻弄され、会期の順延に伴う会場の変更に加え、第4波の襲来による現地開催の中止に追い込まれ、共催者・後援者・協賛者・発表者・参加者の皆様方には大変ご心配をおかけいたしました。学術大会・公開講座とも盛況のうちに会期満了することができました。5月：くにびきメッセ→9月：島根大学松江キャンパス→9月：オンライン、たび重なる仕切り直しに粘り強くお付き合いいただいた実行委員各位に改めて御礼申し上げます。

昨日の全国の感染者数は287名で、これだけ短期間に8月20日の最多25,876名の約1/100にまで激減するとは思ってもよみませんでした。緊急事態宣言の解除と今日の衆院選を界に増加へ転じて第6波となる可能性もあり、予断を許さない状況には違いありません。来年度の愛媛大会以降、不測の事態に見舞われる可能性がゼロとは言いませんので、緊急事態宣言下の大会運営について振り返っておくことも有意義ではないかと考える次第です。

### 1. 学会運営の自助努力と オンライン開催への方針転換

学術大会の運営は、会場・会期の決定と告知、招待講演・座長の依頼、一般演題の募集と採否、ポスター・抄録・プログラム・参加証の作成と配布、会場の設営と撤去、会場でのデータ管理とOA機器操作（場合によっては講演の録画）、総会・懇親会の準備と開催、オプションツアーの準備と開催、弁当・集合写真の手配、交通・宿泊のサポート、場外と場内の案内役の配置など多岐にわたります。ですから、学会運営代行の専門業者に全面委託してしまうのが実行委員会の負担が一番軽く、確実に業務が遂行されるのはいうまでもありません。しかし、参加人数と会場室数によりませんが、単純計算で1日1万円近い経費が発生しますので300万円が最低ラインとなります。本大会は交通の便が頗る悪い地方での開催であったことに、コロナ禍による移動制限も加わったため、第1報の公表時には発表者・参加者の半減が予想されました。よって、業者委託を諦めて実行委員で全ての業務を分担したため、委員各位に多大なる負担を強いる結果となりました。また、発表者の皆

様には抄録入稿と採否通知がG-mailでの遣り取りとなり、大変ご不便をお掛けしたことと思います。

現地での実行委員会は、緊急事態宣言が解除されていた2020年10月を最後に開催できなくなり、その後はZoom会議となりましたが、いかに安全に現地開催するかについてギリギリの調整をして参りました。そのため、学会誌に同封した振替用紙には弁当代・写真代・懇親会費の申込欄を設けたわけです。事前入金の上り残分については後日返金いたしましたが、協賛金にお振り替え下さった先生方にはこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

2021年4月上旬に入ってから、第4波の予兆が現れました。その時点で、会長の私をはじめ実行委員の大半が感染多発地帯(神戸・大阪・名古屋・東京)の在住であること、現地は国内有数の感染寡少地域であることを鑑み、会長としてオンライン開催への転換を即断し、実行委員会での議決後に常任理事会の承認を得て、本学会の公式サイトで告知した次第です。

## 2. 助成金から協賛金へ

大会運営の最重要課題は何と云っても資金繰りですが、本大会は島根県の教育畑で人望の厚い梶谷光弘名誉会長のご尽力によって島根県と松江市の後援が得られ、当初は両自治体から合わせて40万円が拠出される予定でした。ところが、その使途が現地会合に限定されていたため、研究者が現地入りしないオンライン開催は対象外であるため白紙撤回となってしまいました。

そこで、昨春にイタリア・クレモナの病院の屋上でヴァイオリンを独奏し、医療者と患者のみならず世界中の人々にエールを贈った横山令奈さんに白羽の矢を立て、本学会員、地元の医師会員、私の鍼灸師仲間ならびに患者様方に協賛金を募った結果、何とか助成金の欠損を補填することができました。資金面は元より、令奈さんとピアニストのディエゴ・マッカニョーラさんによる心のこもった撮り下ろし動画によって、消化試合的な消沈ムードに陥りがちなオンライン開催に大輪の花を添えられたのではないのでしょうか。

令奈さんには、演奏に加えて京大卒の気鋭の

落語家・桂福丸師匠によるスペシャル・インタビューもご快諾いただき、事前配信によって開催ムードを盛り上げることもできました。さらに、協賛者には令奈さんの写真入り直筆サインとインタビューとデュオ演奏の2枚組DVDを年内にお届けする段取りとなっております。

## 3. 動画の収録と特設サイトの構築

本大会は、昨年オンライン東京大会に準じて、座長を含む特別講演・教育講演・パネルディスカッションおよび開会・閉会の挨拶を全てオンデマンド配信とし、一般発表は抄録原稿とレジюме(任意提出)をダウンロード不可のPDF版で公開いたしました。従来の学術大会では、発表当日の朝までにPPTデータないしレジюмеを受付に提出すれば間に合うわけですが、特設サイトに全ての動画と静止画を埋め込むには、演者から事前に提出していただくかねばなりません。すなわち、ひと月から半月近く締切りが繰り返されてしまったわけで、演者の皆様には相当なご負担を強いることになりました。しかし、皆様のご努力の甲斐あって、つつがなく作業を進められましたことに厚く御礼申し上げます。

昨年との大きな違いは、配信期間の短縮したことです。公開講座を除く動画の配信期間を2日間に限定し、一般演題の静止画については前半の第1～33題を土曜のみ、後半の第34～65題を日曜のみとしたのは、論文化する前の新知見をネット上に長時間公開されては困るとのご意見を反映しての配慮です。通常の学会発表では、1カットは長くて数分、短ければ数十秒で流れてしましますが、オンデマンド方式では動画も静止画も随意に繰り返し視聴・閲覧でき、運営側がダウンロード不可の設定をしても端末側のスクリーン・ショットまでは抑止できません。今後のオンライン開催においては、演者の著作権や資料の所蔵権などをどうクリアしていくかが大きな課題となっていくでしょう。

特設サイトの構築は、島根大会なのだから島根の業者で、との思いから松江市のYK企画に委託いたしました。担当の今岡克己・早瀬耕平両氏は、

五月雨式に送信されてくる動画の編集とフォーマットがゼロの状態からのWEBサイト構築を、たった数ヶ月で完遂してくださいました。さらに、本大会の趣旨に共鳴くださった今岡・早瀬両氏からは、ほんらい企業秘密に属するWEB構築のノウハウを無償で開示してくださるとの申し出がございました。両氏の粉骨砕身のご尽力に敬意を表しますとともに、医学史・郷土史への篤志に感服している次第です。もし今後、オンライン開催に関する情報が必要な場合には、梶谷名誉会長が窓口となりますので公益財団法人いづも財団(info@izumozaidan.or.jp)宛にご一報ください。

#### 4. 電子資料庫(論文PDF)と バーチャル・オブショナル・ツアー (合唱・居合)

本大会は、新史料に裏打ちされた「出雲地方の医学史・洋学史の新知見」を全国に発信すべく、2題の教育講演をセッティングいたしました。各1時間の講演で概要は把握できますが、詳細の熟知には論文が不可欠です。しかし、演者の岡宏三先生と梶谷先生、座長の西島太郎先生、および副会長の渡部良平先生と顧問の田中則雄先生の論文の大半は発行部数も配架施設も少ない紀要の類に掲載されているため、現地以外での閲覧と複写は困難な状況でした。

そこで、オンラインの特性を生かし、全ての関係論文をPDF化して特設サイトからダウンロードできるように設定いたしました。PDF化の許可が下りなかった島根大学医学部図書館で開催された企画展の図録2種については、梶谷先生の計らいで申込者全員に謹呈できることになりました(鋭意、発送の準備中)。

会期翌日が恒例のオブショナル・ツアーは、地方開催の醍醐味の一つです。医史跡の探訪と一次史料の披見に加え、郷土料理の昼食も楽しみなのではないでしょうか。梶谷先生は、新史料を所蔵する公的機関および個人との交渉に加え、昼食の前後には『古事記頌歌』の合唱と不伝流居合術の演武もセッティングしておりました。梶谷先生の開会の挨拶動画の背景に映写されている合唱と演

武を試聴して感銘を受けた私は、特設サイトに全編をアップロードする価値が十二分にあると即断し、公開講座にバーチャル・オブショナル・ツアーを付帯し、会員のみならず一般の方々からもご好評をいただきました。

このように、関係論文と関連動画の公開は当初から予定していたわけではなく、サイト構築の過程で派生した企画だったのですが、YK企画のボランティア精神での即応には脱帽するほかありません。重ねがさね御礼申し上げます。

#### 5. 特別講演&緊急提言& パネル・ディスカッション

医学・医療の歴史を探究する本学会にとって、新型コロナ・パンデミックは現在進行形・未来進行形の研究材料でもあるわけですから、その禍中で開催される本大会で取り上げない訳には参りません。森ノ宮医療学園内に事務局を開設すると同時に講演を立候補されたウィルス学の権威である加藤茂孝先生には、学術大会での緊急提言をご一任いたしました。

特別講演は、感染症(疱疹)の近世史について、『江戸の流行りやまい』の著されている鈴木則子先生にお願いし、コロナの最新科学について、島根県内のコロナ対応を統括されている佐野千晶先生にお引き受け戴きました。さらに、学術研究で地域貢献すべく、2題の特別講演は公開講座といたしました。前述のヴァイオリン・ピアノ・デュオを加えた「ウィズコロナを生きる一歴史と科学そして音楽一」は、先行き不安なテーマを打破する知性と希望に満ちた企画になったと確信している次第です。理事長の坂井建雄先生の総合学会と佐野先生の座長、名誉会員のミヒェル・ヴォルフガング先生の鈴木先生の座長、元よみうりテレビ音楽プロデューサーの大矢寛治氏のデュオの前説によって、講演と演奏の奥行きが増したことにも感謝しなければなりません。

パネル・ディスカッションは、田代三喜を先祖とする田代家伝来の薬師如来坐像の出現と、明人・琢周の肖像画の発見を受けて企画いたしました。基調講演をお願いしていた『中華幻想』の著

者である北海道大学の橋本雄教授は、撮影目前に緊急入院されたため、皆様に動画をご視聴いただくことは叶いませんでしたが、現在は無事に退院され自宅療養中であることを報告させていただきます。理事の鈴木達彦先生による田代三喜の医書の解析は圧巻で、私の中では、曲直瀬道三に継承される察証弁治と現代中医学における弁証論治の思考パターンの相違が浮き彫りとなって、積年の心の靄を晴らすことができました。

コメンテーターは真柳誠先生にお願い致しましたが、朝鮮とベトナムは中国に侵略されたが、侵略を免れた日本は中国に対する憧憬の念が根強く、文化全般と同様に医学の受容にもその傾向が見られるのと同時に、日本優位の視点も併存し、それが「中華幻想」の正体ではなからうか、との要約には脱帽するほかありませんでした。

## 6. エンドレス島根大会

最後に一つ、残念なお知らせをしなければなりません。抄録号の表紙と学術大会のポスターを飾った琢周の肖像画ですが、10月17日に、幕末における捏造だったことが判明いたしました。神農・黄帝・扁鵲など中国の伝説上の名医の現存する絵図は、中国医書の扉絵や挿絵などを下敷きとしていている場合があるので、琢周にも下絵が存在する可能性が否めず、会期後に東京芸術大学のデジタル・アーカイブで古画書を1点1点チェックしていったところ、『漢画独稽古』の下巻に、ポーズも服の塗り加減と皺の入れ方も瓜二つの絵図が掲載されているのを発見し、思わず絶句してしまいました。

宮本君山の『漢画独稽古』は文化4年(1807)の刊本、琢周の肖像と略伝は慶応元年(1865)の筆写ですから、該書の挿絵を雛型にして、それに長い眉と口顎の髭を書き加えたと考えるのが合理的です。肖像と略伝を収録する『誠斎雜稿合綴』をものした産科医・小篠昌榮(1824~1903)は、松江城下の鍼医・小篠昌碩の孫ですので、年代からすれば琢周肖像の偽作者は昌碩とみるのが穏当でしょう。琢周が来日したとされる慶長期から200年後、流派の権威と求心力を保つには開祖の肖像が不可欠となったことが、捏造の主因ではないか

と現時点では推察しているところです。

私は抄録に「近年最大のトピックス、梶谷氏による「肖像」の発見は無条件にもろ手を挙げて喜ぶべきであるから、本大会のポスター・チラシにも掲載したわけである」としたため、研究発表2では還暦頃の風貌と見立てて琢周の生年を推察して自論を展開しました。また、口絵の解説では「肖像の出現によって、琢周の実在説と架空説は、前者で決着をみることとなった」と述べたのですが、架空説が再燃する結果となりました。「抄録の内容と発表の動画に齟齬あるとすれば、多少たりとも推理が進展したものとご理解いただければ幸いである」とも書きましたが、もうこうなると肖像の捏造を踏まえた原著論文でリベンジするほか、名誉挽回する手立てはなくなってしまいました。前会長の私の中では、島根大会はまだまだ続行中なのです。

## 7. 愛媛大会に向けて

公開講座の配信も終わった9月26日に開催した最終の実行委員会(反省会)には、愛媛大会の土手健太郎会長にもご参加いただき、意見交換をいたしました。四国初の開催となること、コロナの情勢は不透明であること、現時点で全ての不安を払拭することはできませんが、本大会の経験知は全てご提供するとお約束いたしました。

ともあれ、来年こそは3年ぶりの現地開催が実施できることを念じて止みません。役員・会員の皆様方に愛媛大会への絶大なる応援をお願い申し上げ、拙報を締めくくりたいと思います。オンライン島根大会へのご理解とご協力、誠にありがとうございました。

**追記:** 初校している本日は12月5日ですが、先月来、オミクロン変異株の急速な世界規模の感染拡大が続いております。新規の入国制限をめぐって日本政府は右往左往し、北京冬季五輪の不安材料にもなりつつありますが、来年5月の愛媛大会まで第6波に見舞われないことを念じるばかりです。最後に、北海道大学の橋本雄先生が無事に職場復帰なされたことをご報告致します。

# 第122回日本医史学会学術大会に参加して

土手健太郎

第122回日本医史学会 会長

2020年から続くCOVID-19パンデミックにより、日常生活や学会運営が大きく変容する中、第122回日本医学史総会・学術大会も大きく影響を受け、春から秋への時期変更の上、9月18日～23日までのオンライン開催となりました。この間、運営の先生方には大変なご負担があったかと思えます。無事に開催して頂けたこと、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

今回、オンラインの第122回に参加させて頂いた感想は、“なんとすばらしいオンラインならではの会を計画・実行されたのだろう”でした。オンライン開催ならではの時空を超えた素晴らしい会はこれからのお手本の一つとなるのではないかと思います。その理由として、1. 緊急提言、教育講演、パネルディスカッションが期間内なら何度でも視聴できたこと。2. 通常の学会では一般演題は2列に組まれるためどうしても見逃してしまう演題がありましたが、今回はオンラインのため一般演題が全部視聴できたこと。また、その演題も発表時間とスライド枚数の制限もなく発表内容を十分説明できているものが多かったこと。3. 公開講座では、“ウィズコロナを生きる”を歴史、科学、音楽からのアプローチで6日間も、イタリアと日本を結んで、その上一般人たちにもただで視聴させてあげるとはなんと太っ腹なのか！今回の会長である長野仁先生、名誉会長の梶谷光弘先生、大会顧問の田中則雄先生、実行委員長の松木宣嘉先生その他計画・開催に御尽力された先生方の能力の高さと心の奥深さを感じております。

加藤茂孝先生による緊急提言、「コロナ禍における医史学の役割」では、過去の感染症からの学びとして、感染症対策の最も重要な“不安を減らす”対策こそ医史学から発せられるべきであること、我々はハチドリの一滴であれとのことが印象的でした。

岡宏三先生と梶谷光弘の教育講演、「出雲地方

の医学史・洋学史」は大変興味を持って視聴させて頂きました。地元愛を持ったお二人の歴史家のたゆまない努力の上の研究成果の内容はすごいとしか言いようがありません。

橋本雄先生、鈴木達彦先生、長野仁先生によるパネルディスカッションも興味深く視聴させて頂きました。「中国医薬・鍼灸の自国化再考」では、現在の東洋医学が、中華幻想のうえにもしくは中華幻想を脱却する努力の上に成り立っていること、田代三喜、曲直瀬道三らが中心になり中国医学の模倣を脱却した日本漢方の礎を作ったとされていること、島根にも関係の深い琢周流鍼術虚実を巡る推理小説のような話、どれも興味深かったです。

鈴木則子先生、佐野千晶先生、横山令奈さんによる公開講座「ウィズコロナを生きる——歴史と科学そして音楽——」は、122回のハイライトではないかと思えました。2人の先生からは、人文系の立場からCOVID-19と同様に伝染病として恐れられた天然痘に対する江戸末期の種痘の接種率向上のための様子と、科学的な立場からCOVID-19に関する最新の情報を丁寧に教授して頂きました。さらに横山さんによるヴァイオリンの演奏は普段クラシック音楽には無関心の私もつい聞きいってしまい時の経つのを忘れてしまいました。一年前のテレビで流れた映像が思い出され、現在のような時こそ音楽が必要なのだと思えました。もちろん、すぐに令奈さんの直筆サイン入りのオリジナル色紙の抽選の申し込みを行いました。

最後になりましたが、未曾有のパンデミックの中、このような素晴らしい会の開催に御尽力頂きました会長の長野仁先生、名誉会長の梶谷光弘先生、大会顧問の田中則雄先生、実行委員長の松木宣嘉先生その他開催に御尽力された先生方に、重ねて謝意を表したいと思います。



## 2. 2020年度事業報告

事業名		内 容	
日本医史学雑誌		第66巻第2・3・4号, 第67巻第1号 発行	
第121回日本医史学会総会 会長 <small>げん ま あきひこ</small> 弦間昭彦 実行委員長 <small>しむらとしろう</small> 志村俊郎		オンライン開催	2020年12月19日～28日
日本医史学会月例会		順天堂大学, オンライン	10, 11月 第4土曜日
		オンライン	1, 3月
日本医史学会9月例会	共催	日本医史学会神奈川地方会秋季例会との合同	
		鶴見大学	2020年9月26日(土)
第39回岐阜シンポジウム	後援	岐阜大学講堂	2021年3月27日(土)

## 3. 第33回矢数医史学賞選考委員会報告

該当なし

## 4. 第27回富士川游学術奨励賞選考委員会報告

平尾真智子「白隠禅師の仮名法語にみる「健康」の語の使用—『於仁安佐美』(1751)から『さし藻草』(1760)まで—」(日本医史学雑誌第64巻第3号掲載)

## 5. 関連医史学団体報告（資料A）

## 6. その他

- ・ 岡山医学史研究会が2021年度より関連医史学団体に加入した。



## II. 協議事項

第1号議案 2020年度決算報告に関する件(資料1-2)

第2号議案 2021年度事業計画案に関する件

事業名	内 容	
日本医史学雑誌	第67巻第2・3・4号, 第68巻第1号 発行	
第122回日本医史学会総会 会長 長野 仁	オンライン開催	2021年9月17日(土) ~18日(日)
第123回日本医史学会総会 会長 土手健太郎	(準備)	愛媛県医師会館 (愛媛県松山市) 2022年5月14(土) ~15日(日)
第124回日本医史学会総会 会長 町 泉寿郎	(準備)	二松学舎大学(東京都) 2023年
第125回日本医史学会総会 会長 瀧澤利行	(準備)	水戸市民会館(茨城県) 2024年
日本医史学会月例会	オンライン	4, 5, 6, 10, 11, 1, 3月 第4土曜日
日本医史学会9月例会	共催	日本医史学会神奈川地方会秋季例会との合同
		オンデマンド配信 2021年9月
日本医史学会12月例会	共催	日本薬史学会・日本獣医史学会・日本歯科医史学会・ 日本看護歴史学会・洋学史学会との合同
		中止
神農祭	協賛	中止
医心方と京都の医学史展	特別 協力	中止

第3号議案 2021年度予算案に関する件(資料3)

第4号議案 役員の改選に関する件(資料4)

(資料A)

## 2020年度 関連医史学団体報告

### 北海道医史学研究会

活動休止中

### 新潟支部

今年度は支部としての例会、発表は行われなかった。

なお支部事務局の所在は従来通り、日本歯科大学新潟生命歯学部医の博物館である。2020年度(令和2年)中の支部会員の学会発表などは次の通りである。

#### 1) 学会・研究会などでの発表

- ①第121回日本医史学会総会(12月19~28日 東京都文京区・日本医科大学:オンライン開催)  
 吉益東洞に対する批判の一考察 西巻明彦  
 明治12年の「医師免許規則」施行前に東京府病院で実施された医術試験について 樋口輝雄
- ②第48回日本歯科医史学会総会(9月26日:『日本歯科医史学会々誌』抄録号による発表)  
 D. HAYES AGNEWの原著と鳥谷部政人訳『外科新論』, T. Eakins画「The Agnew Clinic」  
 について 佐藤利英, 樋口輝雄  
 『建珠録』にみられる歯科的事項 西巻明彦  
 『翁の文』にみられる日本思想の独自化 西巻明彦  
 第二次大戦後に行われた世界の歯科医学教育機関現況報告について  
 —1948~49年発行“Journal of Dental Education”の特集記事から— 樋口輝雄, 佐藤利英  
 明治9年(1876)に東京医学校が作成した歯科の試験問題について 樋口輝雄

#### 2) 著作・論文等

- ①日本歯科大学 医の博物館一問近で見られる, 本物の歴史! —  
 理科教室, 科学教育研究協議会編集/本の泉: 86-87 佐藤利英
- ②アメリカ整形外科の近代化 121. 整形外科の歴史 271. 整形外科看護 25 (1) 蒲原 宏  
 ③アメリカ整形外科の近代化 122. 整形外科の歴史 272. 整形外科看護 25 (2) 蒲原 宏  
 ④アメリカ整形外科の近代化 123. 整形外科の歴史 273. 整形外科看護 25 (3) 蒲原 宏  
 ⑤アメリカ整形外科の近代化 124. 整形外科の歴史 274. 整形外科看護 25 (4) 蒲原 宏  
 ⑥ラテンアメリカ整形外科の近代化 1. 整形外科の歴史 275. 整形外科看護 25 (5) 蒲原 宏  
 ⑦ラテンアメリカ整形外科の近代化 2 / メキシコの整形外科 1. 整形外科の歴史 276.  
 整形外科看護 25 (6) 蒲原 宏  
 ⑧メキシコの整形外科 2. 整形外科の歴史 277. 整形外科看護 25 (7) 蒲原 宏  
 ⑨ウルグアイの整形外科 1. 整形外科の歴史 278. 整形外科看護 25 (8) 蒲原 宏  
 ⑩ウルグアイの整形外科 2. 整形外科の歴史 279. 整形外科看護 25 (9) 蒲原 宏  
 ⑪ウルグアイの整形外科 3. 整形外科の歴史 280. 整形外科看護 25 (10) 蒲原 宏  
 ⑫キューバの整形外科 整形外科の歴史 281. 整形外科看護 25 (11) 蒲原 宏

- ⑬チリの整形外科. 整形外科の歴史 282. 整形外科看護 25 (12) 蒲原 宏  
 ⑭芭蕉と句座を共にした二人の越後の医師—佐藤右雪と細川棟雪(春庵)とその子孫について  
 一奥のほそ道研究新知見— 雪 44 (3) (通巻 519 号): 59-68 蒲原 宏

〒951-8580 新潟市中央区浜浦町 1-8 日本歯科大学新潟生命歯学部医の博物館内  
 電話 025 (267) 1500 e-mail: museum@ngt.ndu.ac.jp 日本医史学会新潟支部 (樋口輝雄)

## 北陸支部

1. 会員数：39名（令和2年12月15日現在）
2. 活動報告：
  - (1) 例会・総会：中止  
 （新型コロナウイルス感染防止の措置により）
  - (2) 「北陸医史」第43号発行予定：令和3年3月20日
  - (3) 幹事会・連絡会：メール審議  
 （新型コロナウイルス感染防止の措置により）

## 3. 連絡先：

〒920-8640 金沢市宝町 13-1  
 金沢大学医薬保健研究域医学系血管分子生物学教室内  
 北陸医史学会事務局（篠原治道，新村祐子）  
 電話：076-265-2182  
 E-mail: n-yuko@med.kanazawa-u.ac.jp

## 神奈川地方会

第54回神奈川地方会春季例会は新型コロナ感染症感染拡大に伴い、中止となりました。第55回神奈川地方会秋季例会と日本医史学会との合同例会は、新型コロナウイルス感染対策として、マスク着用、手指のアルコール消毒を徹底し、受付では「個人票」と「事務局の連絡先」を配布。「個人票」には参加者の連絡先をご記入いただき、「事務局の連絡先」は後日の連絡先として速やかに対応できるように配布致しました。また、会場である鶴見大学会館 地下メインホール（定員300名）ではサーキュレーターを回して十分な換気を行ないながら、前後・左右共に十分な距離を空けて着席し、ソーシャルディスタンスを保って開催することが出来ました。

以下第55回のプログラムを紹介させていただきます。

### 第55回神奈川地方会秋季例会と日本医史学会の合同例会

日時：2020年9月26日 土曜日 14時30分～17時  
 場所：鶴見大学会館 地下メインホール

開会挨拶 松田隆秀（日本医史学会神奈川地方会 会長）  
 日本医史学会からのご挨拶 西巻明彦（日本医史学会 常任理事）

一般演題 14:30～15:00

座長：桐生迪介（かながわ循環器内科）

①『小寺家文書から読み解く明治後期の地域医療』

演者：岡崎女子短期大学 准教授 黒野伸子

②『コロナウイルスはどこから来たか？』

演者：保健科学研究所 加藤茂孝

依頼講演 15:00～15:55

座長：関根 透（日本医史学会神奈川地方会副会長）

『温泉と医学：歴史上の人物のかくし湯についての検索とその医学的適応についての考察』

演者：横浜市立大学医学部医学教育学 教授 稲森正彦

特別講演 16:00～16:55

座長：松田隆秀（日本医史学会神奈川地方会会長）

『グローバル化と感染症—遣唐使と痘瘡，元寇とペスト，コロンブス交換と梅毒，幕末のコレラ  
そして21世紀のCOVID-19』

演者：日本大学医学部病態病理学系微生物学分野 教授 早川 智

閉会挨拶 木村利夫（鶴見大学 教授）

2021年4月8日

日本医史学会神奈川地方会事務局

## 東海支部

『伊藤圭介日記』（第26集）出版についての後援活動を行った。

（山内一信）

## 関西支部

▽日本医史学会関西支部 2020年秋季大会 中止

▽支部機関誌『醫譚』111号 令和2年7月31日発行

支部機関誌『醫譚』112号 令和2年12月25日発行

上述機関誌の収載目次は関西支部メールアドレス（下記）をお開き下さい。

〒581-0003 大阪府八尾市本町 5-1-7 田中医院内 日本医史学会関西支部事務局（田中祐尾）

☎：072-922-2028 FAX：072-993-1237 HP：<http://mhkansai.umin.ne.jp/>

## 京都医学史研究会

毎年春と秋に講師をお呼びして講演会をとりおこなっていましたが，コロナ禍のため，いずれも中止いたしました。

なお，京都医学史研究会・会誌は「啓迪」35号を発行いたしました。

・啓迪35号：令和3年3月31日発行  
 (令和3年秋の後援会は開催の予定です。)

(京都医学史研究会 会長 葉山美知子)

## 広島医史学研究会

研究会は開催を見送りました。

## 福岡地方会

### 第38回 福岡地方会

開催日時：令和3年2月20日(土) 13:30～17:00  
 会 場：福岡ガーデンパレス(福岡市中央区天神4-8-15)  
 参加者数：16名(発表者を含む)

#### 【発表者・演題】

井口 潔	哲人ソクラテスの生きざま「徳育の弁明」
木村専太郎	電気メスの発明者, ウィリアム・ボビー
小林 晶	骨折治療にみた serendipity
権藤 寿昭	ビルロート教授の弟子達のエピソード
佐藤 裕	風邪症候群ウイルスの発見史：インフルエンザウイルスからコロナウイルスへ
鈴木 友和	坪井信道と藩立医育施設
原 寛	明治以前の西洋医学
丸山マサ美	九州大学生体解剖事件関係資料を巡って
山家 滋	希望の花を胸に：一主婦の戦時下日記 武谷信代著(中央公論事業出版2006.3) 平壤医専・戸畑市立病院勤務医の妻から見た時代の変遷を紐解く

## 資料1

## 貸借対照表

2021年3月31日現在

科 目	金 額	備 考
<b>I 資産の部</b>		
1. 流動資産		
現金	110,287	
預金	7,108,153	
流動資産 合計	7,218,440	
2. 固定資産		
(1) 基本財産		
基本財産 合計	0	
(2) 特定資産		
特定預金	8,211,820	
矢数医史学賞基金	7,572,688	
富士川游学術奨励賞基金	3,267,334	
特定資産 合計	19,051,842	
(3) その他固定資産		
華岡碑	3,269,376	
その他固定資産 合計	3,269,376	
固定資産 合計	22,321,218	
資産 合計	29,539,658	
<b>II 負債の部</b>		
1. 流動負債		
前受金	2,430,000	
預り金	36,102	
流動負債 合計	2,466,102	
2. 固定負債		
固定負債 合計	0	
負債 合計	2,466,102	
<b>III 正味財産の部</b>		
1. 一般正味財産		
正味財産 合計	27,073,556	

年会費の納付状況の推移(各年度4/1時点での状況)

	2019/4/1	2020/4/1	2021/4/1
納付率	89%	88%	86%
納付済	638人	605人	568人
会員数	714人	689人	658人

※ここでの会員数とは、正会員、功勞会員、賛助会員、団体会員、学生会員

## 資料2

## 正味財産増減計算書

自 2020年4月 1日  
至 2021年3月31日

科目	金額	備考
I 一般正味財産増減の部		
1. 経常増減の部		
(1) 経常収益		
① 会費収入	6,733,905	
② 助成金	1,468,000	
③ 寄付金	456,000	
経常収益 計	8,657,905	
(2) 経常費用		
① 学会誌刊行費	3,521,217	
② 事業費	819,804	
③ 人件費	2,185,797	
④ 会議費等	28,260	
⑤ 旅費交通費	99,000	
⑥ 通信・運送費	114,857	
⑦ 事務費	0	
⑧ 支払手数料	150,000	
⑨ 医学会負担金	83,700	
⑩ 減価償却費	74,304	
⑪ 雑費	8,250	
⑫ 予備費	55,660	
経常費用 計	7,140,849	
当期経常増減額 = (1) - (2)	1,517,056	
2. 経常外増減の部		
(1) 経常外収益		
① 受取利息	183	
経常外収益 計	183	
(2) 経常外費用		
① 名簿製作費	0	
経常外費用 計	0	
当期経常外増減額 = (1) - (2)	183	
当期一般正味財産増減額 = 1 + 2	1,517,239	
一般正味財産 期首残高	25,556,317	
一般正味財産 期末残高	27,073,556	
II 正味財産期末残高	27,073,556	

定款第31条に従い、2020年度の資産及び会計について監査した結果、理事の職務執行に不備の点はなく、決算報告書は正確かつ妥当であることを認めます。

2021年4月26日

監事

鈴木 達彦



監事

鈴木 達彦



## 資料3

## 2021年度予算

科目	決算	予算	備考
	自 2020年4月 1日 至 2021年3月31日		
<b>I 一般正味財産増減の部</b>			
<b>1. 経常増減の部</b>			
(1) 経常収益			
① 会費収入	6,733,905	8,000,000	
② 助成金	1,468,000	800,000	
③ 寄付金	456,000	500,000	
経常収益 計	8,657,905	9,300,000	
(2) 経常費用			
① 学会誌刊行費	3,521,217	4,000,000	
② 事業費	819,804	1,000,000	
③ 人件費	2,185,797	2,900,000	
④ 会議費等	28,260	70,000	
⑤ 旅費交通費	99,000	600,000	
⑥ 通信・運送費	114,857	200,000	
⑦ 事務費	0	60,000	
⑧ 支払手数料	150,000	150,000	
⑨ 医学会負担金	83,700	90,000	
⑩ 減価償却費	74,304	74,304	
⑪ 雑費	8,250	30,000	
⑫ 予備費	55,660	60,000	
経常費用 計	7,140,849	9,234,304	
当期経常増減額 = (1) - (2)	1,517,056	65,696	
<b>2. 経常外増減の部</b>			
(1) 経常外収益			
① 受取利息	183	165	
経常外収益 計	183	165	
(2) 経常外費用			
① 名簿製作費	0	300,000	
経常外費用 計	0	300,000	
当期経常外増減額 = (1) - (2)	183	-299,835	
当期一般正味財産増減額 = 1 + 2	1,517,239	-234,139	
一般正味財産 期首残高	25,556,317	27,073,556	
一般正味財産 期末残高	27,073,556	26,839,417	
<b>II 正味財産期末残高</b>	27,073,556	26,839,417	



## 資料4

## 一般社団法人 日本医史学会 役員氏名 (五十音順・敬称略 ○は新任)

- 理事長 坂井 建雄
- 副理事長 ○町 泉寿郎
- 常任理事 ○瀧澤 利行, 西巻 明彦, ○松田 隆秀
- 理事 青木 歳幸, ○逢見 憲一, 佐藤 裕, 澤井 直, 志村 俊郎,  
○鈴木 晃仁, ○鈴木 達彦, 園田 真也, ○永島 剛, 長野 仁,  
○松村 紀明, 柳澤 波香, 山内 一信, 渡部 幹夫
- 監事 ○小曾戸 洋, ○真柳 誠
- 代議員 相川 忠臣, ○飯塚 修三, 板野 俊文, ○伊藤 泰広, 今井 秀,  
岩間眞知子, 海原 亮, 遠藤 次郎, 小形 利彦, 郭 秀梅,  
梶谷 真司, 梶谷 光弘, 勝井 恵子, 加藤 茂孝, ○加畑 聡子,  
亀田 一邦, 川原由佳里, 上林 茂暢, 小林 健二, 渋谷 鑑,  
鳥田 達生, 杉田 聡, 鈴木 則子, 鈴木 紀子, 田中 誠二,  
月澤美代子, 都倉 武之, 土手健太郎, 殿崎 正明, ○中村 安秀,  
野尻佳与子, 橋本 明, 花輪 壽彦, 葉山美知子, 樋口 輝雄,  
平尾真智子, ○福永 肇, 星野 卓之, ○三鬼 丈知, 宮川 浩也,  
百瀬 祐, 柳川 鍊平, ○柳澤 隆昭, 山崎 正寿, 吉川 澄美
- 名誉会員 岡田 靖雄, 奥沢 康正, ○川崑 眞人, 蒲原 宏, 酒井 シヅ,  
杉田 暉道, 田中 祐尾, 深瀬 泰旦, 松木 明知,  
○MICHEL, Wolfgang
- 功労会員 青木 國雄, 赤祖父一知, ○猪飼 祥夫, 岩崎 鐵志, 片桐 一男,  
○蔵方 宏昌, 小林 晶, 島田 保久, 新村 拓, 高橋 昭,  
中澤 淳, 原田 康夫, 松下 正明, 吉田 忠
- 編集委員  
(委員長) 町 泉寿郎  
(委員) 逢見 憲一, ○加畑 聡子, 永島 剛, 松村 紀明, ○柳川 鍊平

## 雑報

### 寄贈本リスト

#### 【単行本】

- 坂井建雄『医学全史—西洋から東洋・日本まで』「ちくま新書」2020  
 竹原万雄『近代日本の感染症対策と地域社会』「清文堂」2020  
 橋本明『「治療の場所」の歴史—ベルギーの街 ゲールと精神医療』「立花出版」2020  
 小形利彦『はたごまち文庫 第5号 来形—四〇年—ドイツ医学の地方普及に貢献したお雇い外国人医学教師—アルブレヒト・フォン・ローレツの日本時代』「坂部出版」2020  
 吉元昭治『道教と医学 論文集』「たにぐち出版」2020  
 圭介文書研究会編「伊東圭介日記第二十六集名古屋市東山植物園」2020  
 小菅信子『日本赤十字社と皇室—博愛か報国か』「吉川弘文館」2021  
 ミヒェル・ヴォルフガング, 吉田洋一, 大島明秀 共編『中津市歴史民俗資料館 分館医家史料館叢書 XX 史料と人物 VIII』「中津市教育委員会」2020  
 『令和2年度企画展 吉村昭 医学小説—伝染病予防に奔走した人々』「吉村昭記念文学館」2021  
 青木歳幸, W. ミヒェル編『天然痘との闘い II—西日本の種痘—』「岩田書院」2021  
 泉孝英『日本近現代 医学人名事典 別冊』「医学書院」2021  
 落合知子編『医史薬学系博物館事典』「雄山閣」2021  
 三舟隆之, 馬場基 編『古代の食を再現する—みえてきた食事と生活習慣病』「吉川弘文館」2021  
 藤本大士『医学とキリスト教—日本におけるアメリカ・プロテスタントの医療宣教』「法政大学出版局」2021  
 中野智世, 木畑和子, 梅原秀元, 紀愛子『価値を否定された人ターナチス・ドイツの強制断種と「安楽死」』「新評論」2021

#### 【別刷】

- 『史料・西日本の種痘』執筆代表者 青木歳幸  
 『徳島医学校一等教諭となった医学士千原春甫の事績—医学生が直面した明治初期の医学教育改革—』梶谷光弘「古代文化研究」島根県古代文化センター (29)

#### 【雑誌】

- 『あいまっく』41(4), 42(1-2) 国際医学情報センター  
 『BIBLIA』(154) 天理図書館  
 『Chinese Journal of Medical History』50(4-6), 51(1-2) Chinese Medical Association  
 『Chinese Medical Journal』133(17-24), 134(1-10) Chinese Medical Association  
 『大韓韓医学原典学会誌』34(1) 大韓韓医学原典学会  
 『だより(練馬区医師会)』(632-643) 練馬区医師会  
 『北陸医史』(43) 北陸医史学同好会  
 『醫譚』(通刊129-130)(復刊112-113) 日本医史学会関西支部  
 『いわちどり(小笠医師会誌)』(48) 小笠医師会  
 『除痘館記念資料室だより』(14) (財)洪庵記念会, 除痘館記念資料室  
 『漢方の臨床』67(11-12), 68(1-10) 東亜医学協会

- 『啓迪』(35) 京都医学史研究会  
『神奈川県医学会雑誌』48(1) 神奈川県医師会  
『北播磨探史研究会誌』(24-25) 北播磨探史研究会  
『研究紀要』(15) 佐賀大学地域学歴史文化研究センター  
『明治薬科大学研究紀要』(50) 明治薬科大学  
『日本医師会雑誌』149(9-12), 150(1-7) 日本医師会  
『日本歯科医史学会誌』34(1-2) 日本歯科医史学会  
『労働の科学』75(10-12), 76(1-8) 労働科学研究所  
『斯文』(136) 斯文会  
『STETHOSCOPE』(238-239) 日本医学切手の会報  
『適塾』(53) 適塾記念会  
『東海国立大学機構大学文書資料室紀要』(29) 東海国立大学機構大学文書資料室  
『洋学』(27-28) 洋学史研究会

## 日本医史学会への寄付金について

2018年より、学会財政の安定化のためにご寄付をお願いしております。その後、数多くの会員の方たちのご厚意をいただき、2020年度(2021年3月末まで)には2,001,000円のご寄付を頂戴することができました。このご寄付により学会の財政基盤を大きく改善することができました。学会から感謝の意を表するために、寄付者のお名前を以下に掲載させていただきます。

### 2020年度寄付者

#### ・100万円以上

坂井 建雄

#### ・10万円以上

宮川美知子

#### ・5万円以上

彦坂 行男

#### ・2万円以上

泉 孝英	市川 友理	今井 秀	江沢 暁彦	小清水敏昌
佐藤 裕 (福岡)		杉田 洋一	田中 晃伸	(株)デュナミス
中澤 淳	廣川 和花	真柳 誠		

#### ・2万円未満

青木 純一	青島 敏行	秋葉 哲生	雨森 正高	石原 克哉	板野 俊文
稲松 孝思	上園 慶子	榎本 信哉	大出都紀子	逢見 憲一	岡田 靖雄
小形 利彦	荻原 通弘	笠原 康弘	川嶋みどり	北村 正敏	木村 丹
久保田智樹	佐藤 辰弥	佐野 新	篠田 達明	志村 俊郎	神内 國榮
鈴木 友和	鈴木 紀子	須磨 幸蔵	高橋 薫	谷中 誠	富田 英壽
内藤美智子	中神 源一	中山 茂春	半井 英江	西巻 明彦	原 寛
平尾真智子	福本 正勝	藤田 明子	牧野 洋	正岡 太郎	松浦 洋子
松岡順之介	松村 紀明	三上 正利	山内 一信	山崎 正寿	山田 裕道
湯浅有希子	由利 和也	和田 源司	渡辺 浩二	渡部 幹夫	